

平成22年4月13日現在

研究種目： 基盤研究（B）
 研究期間： 2007年～2010年
 課題番号： 19330127
 研究課題名（和文） インクルーシブな地域社会創成のための都市型中間施設における実践の理論と方法
 研究課題名（英文） Theory and methodology of practices in urban intermediate facilities to facilitate inclusive communities

研究代表者 津田英二（TSUDA EIJI）
 神戸大学大学院人間発達環境学研究所 准教授
 研究者番号：30314454

研究代表者の専門分野： 障害者学習支援論
 科研費の分科・細目： 社会学・社会福祉論
 キーワード： インクルージョン、社会的排除、都市型中間施設、共生、ジェンダー、障害、ボランティア、子育て支援、地域福祉、社会教育、キャリア支援、就労支援

1. 研究計画の概要

この研究は、社会的排除に抗するインクルーシブな社会を形成するための、地域社会における都市型中間施設モデル及び活動モデルを創出しようとするものである。その際、国際的ネットワークのもとで計画・実施・評価を行い、各国あるいは地域間の差異と共通項とを整理し、一般化可能なモデルに練り上げていくことをめざす。

年度ごとの研究計画の概要は下記の通りである。

2007年度

研究計画について共同研究者、国際ネットワーク拠点と合意を形成し、アクションリサーチに着手し軌道に乗せることを目標とする。

2008年度

全国各地においてアクションリサーチの中間評価を実施し、中間報告会（国際定例研究会）開催、中間報告書作成を行い、最終の成果に向けて必要に応じた軌道修正を行う。

2009年度

全国各地においてより質の高いアクションリサーチをめざし、最終評価の方法等を確定するなど最終報告に向けた準備を行う。

2010年度

最終評価を実施し最終報告会を実施することで、本研究の成果をとりまとめる。また研究成果を学会や報告書において公表する。

2. 研究の進捗状況

〈国際的ネットワーク拠点〉

韓国のソウル市立知的障害人福祉館及び

ナザレ大学との関係を深化させ、毎年相互に研究交流集会を開催している。特に韓国ナザレ大学とは交流協定を締結するに至っている。また、英国マンチェスター大学との交流を行い、共著論文執筆について話し合うまでに至っている。また、英国ロンドン大学との関わりの深まりやフランスとの教育的ライフストーリー研究の交流の深まりなども見られる。

しかしながら、研究体制の違いなどによって当初の目標を達成できていない部分もある。ミネソタ大学との関係が形成されつつあるが、拠点として機能するところまでは至っていない。中国東北師範大学との交流も2010年度中に少しでも前進させたいところである。

〈国内のアクションリサーチ〉

神戸大学の実施している「のびやかスペースあーち」での取り組みは、この3年間で社会的評価も得て、インクルーシブな社会づくりの拠点モデルとして機能してきている。この実践的研究をめぐる理論や評価枠組みについての検討も順次行われている。

都市型中間施設として、より機能する実践モデル開発のために、いくつかの新しい取り組み（大学の資源を用いた障害のある人たちの現場実習と学生のキャリア教育を組み合わせた実践、地域社会の中で長期的に共に生きる関係を形成するための実践）も始め、それらのための理論や評価枠組みについての論議も進めてきている。

多様な社会問題を横につなぐボランティア

一な実践モデル形成についても理論や評価枠組みを行ってきている。

社会福祉協議会をフィールドとして、多様な社会資源、社会的な問題をつなぐ実践モデルの理論化も進んでいる。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

(理由)

アクションリサーチを国際的な連帯の中で進めていこうという構想について、韓国、英国とは順調に進めることができ、交流による成果も表れてきている。特に韓国とは、毎年研究交流集會を開催することができ、相互に刺激し合う関係になっている点は高く評価できると考える。しかしその一方で、中国、米国をはじめとしたその他の地域との研究協力は、相互の息が合わない状態が続いている。研究期間内に一步でも実質的な交流に近づくことができたらと考えている。

国内のアクションリサーチは、概ね予定通りあるいは予定を上回る成果が表れている。研究成果として表れている部分は言うまでもないが、それ以外にも重要なデータが着実に蓄積されていることは高く評価できると思う。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は以下の点を強化した研究を進めていく。①アクションリサーチの推進とさらなるデータの蓄積、②蓄積されてきたデータを整理する。③整理されたデータに基づいた研究成果発表を行う。④国内外の拠点との継続的な研究交流促進、⑤研究成果全体のまとめ。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計17件)

① Suemoto Makoto, *Evenements de la vie et particularite' du processus de formation au Japon*, Martine Lani-Bayle et Marie-Anne Mallet (coordination), *Evenements et formation de la personne. Tome 3* L'Harmattan, fe'vrier, 2010, pp.195-213

② 쯔다 에이지 (津田英二) 「지역에 있어 장애인 복지 위한 행정의 역할과 과제」 『지역사회에서의 장애인 재활복지와 당사자주의』 2009年、pp.5-15

③ 植戸貴子 「知的障害者の地域生活移行とソーシャルワーク」 『ソーシャルワーク研究』

第33巻2号、2007年、pp.88-94

④ 清水伸子・津田英二 「インフォーマルな形態での福祉教育実践におけるデータに基づく評価枠組み形成モデル」 『日本福祉教育・ボランティア学習学会年報』第12号、2007年、pp.94-115

⑤ 伊藤篤 「福祉教育・ボランティア学習における評価手法の基礎的検討」 『日本福祉教育・ボランティア学習学会年報』第12号、2007年、pp.30-51

他12件

[学会発表] (計10件)

① 松岡広路 「福祉教育・ボランティア学習の近未来を展望する」 『日本福祉教育・ボランティア学習学会』 2009.11.28、日本福祉大学

② 津田英二 「地域社会での障害者福祉活性化のための地方自治体の役割と課題」 2009年 韓・日国際学術大会、2009年1月30日、韓国・忠清南道庁

③ 津田英二 「学びの場を「反転」する」 『日本ボランティア学会』 2007.6.24、大阪市立大学

他7件

[図書] (計16件)

① 朴木佳緒留・伊藤篤・津田英二 他 「インクルーシブな社会の形成と発達」 『発達科学への招待』 かもがわ出版、2008年、pp.62-76

② 原田正樹 『共に生きること・共に学びあうこと』 大学図書出版、2009年

③ 津田英二 編著 『インクルーシブな社会に向けた実践』 神戸大学大学院人間発達環境学研究所ヒューマン・コミュニティ創成研究センター、2009年

④ 横須賀俊司 他編 『社会福祉と内発的発展』 関西学院大学出版会、2008年

⑤ 横須賀俊司 他 『支援の障害学に向けて』 現代書館、2007年

他10件

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他] なし